

計画策定に当たって

- 1 計画の趣旨  
「地域コミュニティづくり」、「学校教育環境づくり」、「県民の学習環境づくり」の3つを基本目標とする、千葉県教育長期ビジョンに基づき再編計画を策定。
- 2 計画の目標年次  
平成14年度～平成23年度末
- 3 計画の性格  
長期的な視点に立った今後の県立高等学校の在り方を示す。

計画の基本的な考え方

<p>1 学校を取り巻く状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個性と創造性に富んだ組織と人材を育成する仕組みづくり</li> <li>・独創性と多様性を発揮し得る社会の実現</li> <li>・機会の平等、個性重視、自由な選択、適度な競争への転換</li> <li>・社会のために尽くす心の軽視</li> </ul>	<p>2 県立高等学校の現状</p> <p>(1) 中学校卒業生数の減少と学校数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 97,786人 (H元年3月) 約55,000人 (H24年3月)</li> <li>・ 84校 (S50年度) 144校 (H元年度) 142校 (H14年度)</li> </ul> <p>(2) 生徒の多様化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 能力・適性、興味・関心、進路希望等の多様化</li> <li>・ 普通科指向</li> <li>・ 「生きる力」の不足</li> <li>・ 「入れる学校」を選ぶ傾向</li> <li>・ 学力低下の指摘</li> </ul> <p>(3) 生涯学習社会の進展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域における生涯学習の環境づくり</li> </ul>
--	---

<p>3 県立高等学校の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒数減少への対応</li> <li>・ 画一的・形式的平等教育からの脱皮</li> <li>・ 学力向上への取組</li> <li>・ 目的意識の低い(モラトリアム)生徒や倫理観の不足した生徒への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開かれた学校づくり</li> <li>・ 基礎・基本の確実な定着</li> <li>・ 創造力の伸長</li> </ul>
--	--

<p>4 目指すべき県立高等学校像 基本的コンセプト</p> <p>(1) 生徒がその個性を最大限に生かせ、夢の実現に一役買ってくれる学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎・基本の確実な定着、学力の向上、創造力の伸長</li> <li>・ 学校選択や教科・科目選択の幅の拡大</li> <li>・ 生徒の能力・適性等への対応</li> <li>・ 次代のリーダーの育成</li> <li>・ やり直しのきくシステムの構築</li> </ul> <p>(2) 生徒や教職員が生き生きと活動して、元気のある学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が自ら学び考え、わかる喜びを実感できる学校づくり</li> <li>・ 教職員が働きがいを感じ、自信と誇りや意欲を持てる学校づくり</li> <li>・ 学校自らの創意工夫による切磋琢磨</li> <li>・ 生徒が主体性を持って学校生活を送ることができる環境づくり</li> </ul> <p>(3) 地域の人が集い、地域に愛される学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開かれた学校づくり</li> <li>・ 地域の学習センターとしての役割を果たす学校づくり</li> <li>・ 学校の教育力の地域への提供</li> </ul>
--

<p>5 再編の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校規模や配置の適正化</li> <li>・ やり直しのきくシステムの構築</li> <li>・ 学校の再編・学科の再構成</li> <li>・ 選択幅の拡大</li> <li>・ 開かれた学校づくり</li> <li>・ 施設・設備の有効活用</li> <li>・ 入学者選抜方法の工夫と改善</li> </ul>
---

<p>6 再編後の県立高等学校</p> <p>142校      127校程度</p>
---

## 再編計画の概要

### 1 魅力ある高等学校の設置

形態等	内 容
単位制高校	全日制高校については、総合学科だけでなく、普通科や一部の専門学科を含め、16校程度設置する。 なお、定時制の課程及び通信制の課程は、原則として単位制とする。
総合学科の設置	既設校の再編により、全県的なバランスを考慮しながら、各学区に1校程度を目標に、計9校程度設置する。
中高一貫教育校	既設の全日制高校を転換することにより、6年間一貫の中等教育学校を2校程度、市町村立中学校と接続した連携型一貫校を2校程度設置する。
(仮称)総合技術高校	学校や学科の統合により、例えば、農業科と工業科など複数の学科を併置し、専門学科の枠を越えた学習も可能とする学校を、2校程度設置する。
芸術科の設置	従来からある芸術科目だけでなく、演劇などを含めた芸術分野の中から、選択して専門的に学習できる学科を、2校程度の既設校に設置する。
情報科の設置	コンピュータの構造、文書処理や表計算などの基本的な知識や利用技術だけでなく、美術や音楽などの創造的な表現力の要素も取り入れ、情報機器を最大限に活用した教育内容を持つ学科を、2校程度の既設校に設置する。
女子校の共学化	男女共同参画社会の進展を踏まえ、原則として女子校を共学化する。 なお、2校程度は実施を留保し、志願者の動向を見守る。
国際高校の充実	外国人子女や帰国子女の受入れの拡大を図る一方、コミュニケーション能力にたけ、外国人と協同して創造的な仕事ができるような、真の国際人が育成されるよう、教育内容等のさらなる充実を図る。

### 2 学校の配置及び学科再構成等

区 分	内 容
県全体の学校配置	142校 127校程度(中等教育学校2校程度を含む。) 中学校卒業生数の減少及び生徒の多様な進路選択などの現状を勘案し、学校規模の適正化を図り、あわせて学校及び学科の適正な配置を実施する。
全日制高校の配置	141校 123校程度(中等教育学校2校程度を含む。)
普通科	114校 97校程度(中等教育学校2校程度を含む。) 単位制の導入や、教科・科目の選択幅の拡大を図るなど学力向上のための積極的な取組みを行う。
普通系専門学科・コース	既設の理数科、体育科、英語科等の他に、新たに芸術科を設置する。
職業系専門学科・類型	39校 28校程度((仮称)総合技術高校2校程度を含む。) 一部の学校を統合して(仮称)総合技術高校へ転換するほか、学科の枠を越え幅広い選択もできる教育課程の編成を行う。
農業科	15校 10校程度 うち2校程度を工業科設置校と統合し、(仮称)総合技術高校へ転換する。
工業科	8校 8校程度(現状維持) うち2校程度を農業科設置校と統合し、(仮称)総合技術高校へ転換する。
商業科	11校 11校程度(現状維持) 統合や学科再構成を行うが、現状の校数を維持する。
水産科	3校 2校程度 各校の地域性等を考慮する。
家庭科	10校 5校程度 一部を総合学科等の選択教科・科目として学べるようにする。
厚生科	福祉系1校 今後拡充していく。 看護系1校 1校にさらに専攻科を設置する。
情報科等	情報科は、今後、2校程度の既設校に設置する。 観光や環境などが学べる学科や類型を設置する。
総合学科(再掲)	既設校の再編により、全県的なバランスを考慮しながら、各学区に1校程度を目標に、計9校程度設置する。
定時制高校の配置	三部制定時制高校を3校程度設置する。 夜間定時制は独立校1校・併置校16校 併置校12校程度とする。 定時制は、原則として単位制とする。
通信制高校の配置	独立校を1校設置する。 いわゆる「フリースクール」のような場を提供する。